学校番号	J1002

令和８年度　家庭科

学年	1年	週授業コマ数	1	授業時数(45分)		標準授業時数(50分)	35
使用教科書	新　技術・家庭　家庭分野　暮らしを創造する（教育図書）						
副教材等	新　技術・家庭　家庭分野　暮らしを創造する　ワークノート（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日常生活において、家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけましょう。
・家族・家庭や地域における生活の中から、問題を見つけ出して課題を設定し、解決策を考えて、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これらの生活を展望して課題を解決しましょう。
・家庭分野の学習については、実習等において準備物が必要になる場合があります。前日に持ち物の点検をするなどして、忘れものがないようにしましょう。

2　学習の到達目標

将来の自立のために必要な家族・家庭、衣食住などに関する知識や技術を身につけるとともに、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）　家族・家庭の機能について、家族・家庭、衣食住などについて、自分の生活を見つめ、その中から課題を見つけ、学習に取り組む。
（2）　生活の自立を目指し、家庭生活をより良く豊かに創造する力を身につけ、学習したことを活かして、自らすすんで家庭でも実践するようにする。
（3）　自分と家族・家庭生活と地域の関わりを考えて、家族や地域の人々と協働し、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実績的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・自分の成長と家族や家庭生活のかかわりがわかり、基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住などについて理解しているとともに、それらに繋がる技能を身につける。	・生活を豊かにするため家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、問題を解決する力を身につける。	・家族や地域の人々と協働し、より良い生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	A家族・家庭	・家族・家庭生活 1　家族の一員としてできることを考える 2　家族関係をよりよくする方法を考える 3　高齢者とのかかわりを知る 4　家庭生活と地域のかかわりを知る	a:自己管理や家族・家庭、地域との関わりを深めることができる。 b:家族・家庭の役割を考察し、協力するためにできる活動を考えることができる。 c:普段の生活を振り返り、家庭や地域における課題解決に向けて実践的に取り組むことができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等の記述 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等の記述 定期考査	・活動中や課題への取り組み ・ワークノート ・プリント等の記述
1学期 2学期	B衣食住の生活	衣食住の生活 健康と食生活 1　食事の役割を考える 2　健康によい食習慣について考える 何をどれだけ食べたらよいかを考える 3　栄養素の種類と働きを知る 4　中学生に必要な栄養の特徴を知る 5　食品に含まれる栄養素を調べる 6　1日に必要な食品の種類や概量を知る 7　1日分の献立を考える	a:より良い生活を考え、自身の食生活における課題を発見し、栄養素の働きや食品の栄養的特徴について理解をし、調理実習を通して、食材の扱い方、調理方法など食生活に関心を持ち、日常食または、地域の食材を生かした調理等の活動を通して、地域の食文化について理解する。 b:五大栄養素とそれらがどのような食品にふくまれているかを学び、６つの食品群をバランスよくとるように考えることができる。 c:食事の役割や健康と食事とのかかわりについて理解し、解決に向けて実践的に取り組むことができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み ・ワークノート ・プリント等への記述 ・実習

2学期		調理と食文化 1　食品の選択と購入について考える 2 購入した食品を適切に保存する 3　調理の基礎を知る 4 肉を調理する 5 魚を調理する 6 野菜を調理する 7　地域の食文化を知る 8　和食の調理をする		・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み ・ワークノート ・プリント等への記述 ・実習
	A家族・家庭	・家族・家庭生活 1　家族の一員としてできることを考える 2　家族関係をよりよくする方法を考える 3 高齢者とのかかわりを知る 4　家庭生活と地域のかかわりを知る	a:自己管理や家族・家庭、地域との関わりを深めることができる。 b:家族・家庭の役割を考察し、協力するためにできる活動を考えることができる。 c:普段の生活を振り返り、家庭や地域における課題解決に向けて実践的に取り組むことができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み ・ワークノート ・プリント等の記述

3学期	B衣食住の生活	衣食住の生活 健康と食生活 1　食事の役割を考える 2　健康によい食習慣について考える 何をどれだけ食べたらよいかを考える 3　栄養素の種類と働きを知る 4　中学生に必要な栄養の特徴を知る 5　食品に含まれる栄養素を調べる 6　1日に必要な食品の種類や概量を知る 7　1日分の献立を考える	a:より良い生活を考え、自身の食生活における課題を発見し、栄養素の働きや食品の栄養的特徴について理解をし、調理実習を通して食材の扱い方、調理方法など食生活に関心持ち、日常食または、地域の食材を生かした調理等の活動を通して、地域の食文化について理解する。 b:五大栄養素とそれらがどのような食品にふくまれているかを学び、6つの食品群をバランスよくとるように考えることができる。 c:食事の役割や健康と食事とのかかわりについて理解し、解決に向けて実践的に取り組むことができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み ・ワークノート ・プリント等への記述 ・実習
		調理と食文化 1　食品の選択と購入について考える 2　購入した食品を適切に保存する 3　調理の基礎を知る 4　肉を調理する 5　魚を調理する 6　野菜を調理する 7　地域の食文化を知る 8　和食の調理をする		・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み ・ワークノート ・プリント等への記述 ・実習

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	J1002

令和８年度　家庭科

学年	2	週授業コマ数	1	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	35
使用教科書	新　技術・家庭　家庭分野　暮らしを創造する（教育図書）						
副教材等	新　技術・家庭　家庭分野　暮らしを創造する　ワークノート（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭分野の学習は、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる力を身につけるうえで大切な学習です。特に中学生の時期は、人々に支えられて生活していることに気づくこと、そして自分も生活を支える一員としての自覚を持ち、生活をよりよくしようとする創意工夫をしていきましょう。

また、班学習などを通じて、ひとりひとりが自己の責任を果たし、相互に協力しながら学ぶことも大切です。学習したことを生活に活かせるよう、しっかり勉強しましょう。

2　学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

（２）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

（３）自分と家族、家庭生活と地域との関りを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費生活や環境などについて理解しているとともに、それらにかかる技能を身につけている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	家族や地域の人々と協力し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決を主体的に取り組み、振り返って改善し、生活を工夫・想像することを実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	B衣食住の生活	●私たちの衣生活 1. 衣服の働きを知ろう 2. 目的に合わせて自分らしく着よう 3. 自分に合った衣服を手に入れよう 4. 衣服の手入れをしよう 5. 衣服を計画的に活用できるようになろう ●生活を豊かにする製作	a. 衣生活の学習を振り返り、消費者が環境や社会について及ぼす影響・責任について理解している。 b. 身近な衣生活が社会や環境に及ぼす影響について理解し、工夫することができる。 c. 衣生活に関する学習や実習を通して、課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組んでいる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート ・プリント等への記述
1学期 2学期	A家族・家庭生活	●幼児の生活と家族 1. 幼児の体の発達を知ろう 2. 幼児の心の発達を知ろう 3. 幼児の生活習慣の身につけ方を知ろう 4. 幼児の生活の特徴を知ろう 5. 幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう 6. 幼児の発達を支えるおとなの役割を考えよう 7. 幼児のおやつを作ってみよう	a. 幼児の生活と家族に関する知識・技能が身についている。 b. 幼児の生活と家族の学習を通して、家族や関わる人々に支えられてきたことに気づく。 c. 幼児の生活と家族の学習を振り返り、家族や地域の人と関わり、自身にできることはなにかを考え、実践することができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・振り返りシート ・定期考査	・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート ・プリント等への記述

	A 家族・家庭生活	●幼児の生活と家族 1. 幼児の体の発達を知ろう 2. 幼児の心の発達を知ろう 3. 幼児の生活習慣の身につけ方を知ろう 4. 幼児の生活の特徴を知ろう 5. 幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう 6. 幼児の発達を支えるおとなの役割を考えよう 7. 幼児のおやつを作ってみよう	a.幼児の生活と家族に関する知識・技能が身についている。 b.幼児の生活と家族の学習を通して、家族や関わる人々に支えられてきたことに気づく。 c.幼児の生活と家族の学習を振り返り、家族や地域の人と関わり、自身にできることはなにかを考え、実践することができる	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート ・プリント等への記述
3学期	B 衣食住の生活	●私たちの衣生活 1.　衣服の働きを知ろう 2. 目的に合わせて自分らしく着よう 3. 自分に合った衣服を手に入れよう 4. 衣服の手入れをしよう 5. 衣服を計画的に活用できるようになろう ●生活を豊かにする製作	a.衣生活の学習を振り返り、消費者が環境や社会について及ぼす影響・責任について理解している。 b.身近な衣生活が社会や環境に及ぼす影響について理解し、工夫することができる。 c.衣生活に関する学習や実習を通して、課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組んでいる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・振り返りシート ・定期考査	・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート ・プリント等への記述

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	J1002

令和８年度　家庭科

学年	3	週授業コマ数	1	授業時数(45 分)		標準授業時数(50 分)	20
使用教科書	技術・家庭「家庭分野」生活の土台　自立と共生（開隆堂出版）						
副教材等	技術・家庭ノート　家庭分野　（正進社出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭分野の学習は、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる力を身につけるうえで大切な学習です。特に中学生の時期は、人々に支えられて生活していることに気づくこと、そして自分も生活を支える一員としての自覚を持ち、生活をよりよくしようとする創意工夫をしていきましょう。

また、班学習などを通じて、ひとりひとりが自己の責任を果たし、相互に協力しながら学ぶことも大切なことです。学習したことを生活に活かせるよう、しっかり勉強しましょう。

2　学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

（２）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

（３）自分と家族、家庭生活と地域との関りを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費生活や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	家族や地域の人々と協力し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決を主体的に取り組み、振り返って改善し、生活を工夫・想像することを実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期		※前期は技術				
2学期						
	C 消費生活・環境	●家庭分野　ガイダンス ●消費生活と環境 1. 家庭生活と消費 2. 購入・支払いと生活情報 3. 消費者被害と消費者の自立 4. 持続可能な社会	a. 消費生活・環境に関する知識・技能が身についている。 b. 消費生活・環境の学習を振り返り、消費者が環境や社会について及ぼす影響・責任について考察し、表現することができる。 c. 身近な消費生活・環境が社会や環境に及ぼす影響について理解し、生活を工夫することができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート
3学期	B 衣食住の生活	●住生活と自立 1. 住まいの役割と住まい方を考えよう 2. 住まいの安全について考えよう 3. 災害に備えた住まいについて考えよう 4. 健康で快適な室内環境を工夫しよう 5. よりよい住生活を目指して	a. 住まいの役割と住まい方について理解し、考えることができる。 b. 住生活の安全について課題を設定し、解決策を考えることができる。 c. 災害に備えた住まい方について考え工夫することができる。また、健康で心地よい生活をするために住生活を工夫し、実践することができる。	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査	・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度